

# 児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

## 事業所評価

2025年 1月

ハート

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、  
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率 : 職員 100% (8名/8名)

### 《調査からの読み取り・改善点》

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	訓練室のスペース、職員の配置人数は適切である。バリアフリー化に関しては現在必要とする児童はいない。	訓練室内の安全確認(玩具、文具)。見通しやすいよう設置物や職員の配置を行う。
業務改善	児童それぞれに目標設定を作成・振り返りの実施。毎年1月にホームページにて公表している。月に1度スタッフ会議を行い、イベントの立案や児童一人一人日々の支援方法の確認提案を行っている。	月に1度のスタッフ会議を継続。日々の業務で報連相の徹底。
適切な支援の提供	計画書の更新、作成にあたって保護者面談、スタッフ会議の実施。日々児童の様子を情報共有し迅速に対応できるようにしている。プログラムが固定化しないよう、月ごとに担当者を替え様々なイベントの立案を行っている。	日々児童との関りの中で普段と違う様子を職員間で共有し、連携出来るようにしていく。連絡帳や送迎引き渡し時にご家族との情報共有を行う。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	他機関と電話やメール文書にて、定期的なモニタリングの実施。事業所での生活の様子や他機関での様子の共有を図っている。	引き続き相談員や他機関との連携を図り日頃の様子や課題点などの共有をしていく。他施設・他事業所との関りについて、現時点では実施の予定なし。
保護者への説明責任等	連絡帳や電話にて保護者からの要望や生活上の課題点などその都度対応している。送迎時に保護者様から悩み相談に応じている。毎月新聞を発行し、イベントや日々の様子をお伝えしている。	連絡帳にその日の様子を分かりやすく記入し、帰り送迎時に保護者様へ様子や変化をお伝えしている。
非常時等の対応	虐待・感染症・緊急時などの各マニュアルの提示、定期的な研修やチェックリストの実施を行っている。ヒヤリハット事例集を作成し事業所内共有している。	事業所にて災害時に備え避難訓練を年2回実施。各委員会を行い、事業所間での情報共有・連携を行う。